



美術

1 絵画の構図

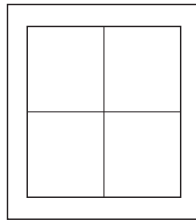
ポイントチェック問題

① 構図の工夫

● 構図の決め方

- ☑1) 風景画などの絵画表現では、見えるものをそのまま画面に取り入れるのではなく、選択 や 強調 をして自分の表現したい内容に適した構図を決めることが必要である。

- ☑2) 右の図は、厚紙などに長方形の窓をあけ、二等分のところに縦・横の糸をつけたもので、風景画や静物画で構図を決める時に使う道具である。この道具の名称を確かめよう。構図枠(見取りわく)



- ☑3) 構図枠(見取りわく)を使って風景を切り取ることを トリミング という。

● 静物画

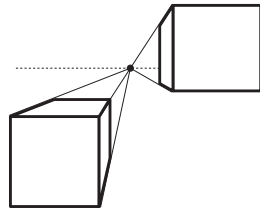
- ☑1) 静物画などで、作品のモデルになる身近な素材を モチーフ という。
- ☑2) 静物画で構図を決める時は、モチーフの 配置 (並べ方)、見る位置、角度などを十分に検討し、構図枠(見取りわく)を使うなどして画面への取り込み方を工夫する。
- ☑3) 静物画で彩色する時は、主調色を決めて全体をうすく下ぬりしてから、モチーフ同士の色の つながり を見ながら色を重ねていく。

② 線遠近法(透視図法)

- ☑1) 絵画に遠近法を取り入れると、平面である画面に立体感や 奥行き を表現することができる。

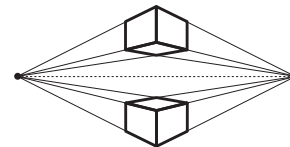
- ☑2) 右の図の点

線は、描く人の目の高さを表しており、地平線(HL)という。また、図の中の点のように、遠くへと続く線が集まっている地平線上の一点を 消失点 (VP) という。



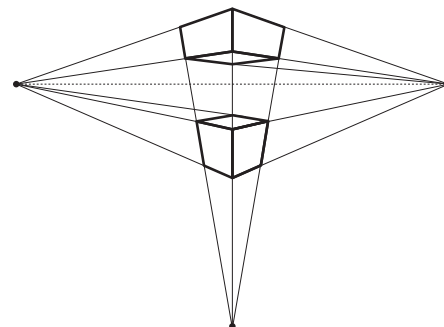
- ☑3) (2)の図は、消失点を 1つ 持つ線遠近法で、一点透視図 という。この図法は、道路などを 正面 から見通す場合に多く用いられる。

- ☑4) 右の図は、消失点を 2つ 持つ線遠近法で 二点透視図



という。この図法は、建物などをあまり高くない位置で、斜め の角度から見た場合に多く用いられる。

- ☑5) 下の図は、消失点を 3つ 持つ線遠近法で、三点透視図 という。この図法は、建物などを下方から見上げる、または上方から見下ろす場合に用いられ、対象物の高さが強調される。



● 実戦問題 (得点UPテスト1)

実施日 1回目 ▶ 月 日
2回目 ▶ 月 日

/100

構図の工夫

▶ 解答・解説は別冊P.39

- ① 構図の工夫について、次の問に答えなさい。

- ☑1) 構図を決める時に用いる道具の名称を答えなさい。
- (2) 静物画について説明した次の文(i)~(iii)のうち、正しいものには○を、間違っているものには×をつけなさい。
- ☑ (i) 静物画で作品のモデルとして使う身近な素材を、トリミングという。
- ☑ (ii) 静物画では、描く素材の配置、見る位置、角度などを十分に検討して構図を決める。
- ☑ (iii) 静物画の彩色では、1つの素材を細部まで仕上げてから、他の素材を彩色していく。

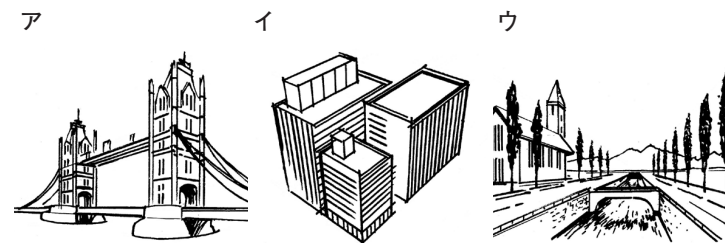
- ① (1)10点, (2)各5点

(1)	
(i)	
(2) (ii)	
(iii)	

線遠近法(透視図法)

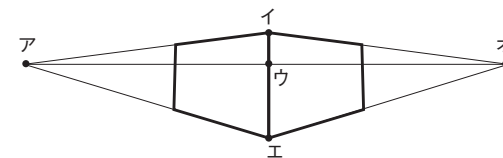
- ② 線遠近法(透視図法)について、次の問に答えなさい。

- ☑1) 次の図ア~ウは、一点透視図・二点透視図・三点透視図のうちどれか。それぞれ答えなさい。



- (2) 次の文(i)~(iii)は、一点透視図・二点透視図・三点透視図のうちどれについて説明したものか。それぞれ答えなさい。

- ☑ (i) 道路などを正面から見通す場合に多く用いる。
- ☑ (ii) 対象物の高さが強調され、建物などを下方から見上げる、または上方から見下ろす場合に用いる。
- ☑ (iii) 建物などを斜めの方向から、あまり高くない視点で見た場合に多く用いる。
- ☑3) 次の図のア~オから、消失点をすべて選んで、記号で答えなさい。



- ② (1)(2)各10点, (3)完答15点

	ア
(1) イ	
ウ	
(i)	
(2) (ii)	
(iii)	
(3)	

美術

美術